

陳情第187号	受理年月日	令和6年6月3日
付託委員会	建設建築委員会	
件名	令和の北九州市が「世界遺産を潰した街」と呼ばれないようにすることについて	
要旨	<p>北九州市は、昭和時代には「七色の煤煙だらけの公害の街」と、平成時代には「ヤクザが手榴弾とピストルで市民を殺傷する事件が頻発する暴力団の街」と日本中から呼ばれていた。しかし、市民、企業、警察、市役所、マスコミが何十年も努力協力し、やっとその汚名を消して、今や「環境首都」「新日本夜景3大都市」「門司港レトロの街」と呼ばれるまでになった。</p> <p>昨年10月、初代門司駅遺構が発見された。その保存方法について、市長、市議会、学会・市民団体に意見が分かれている。今年4月12日、国連ユネスコの国際的な助言機関である国際産業遺産保存委員会の会長が、市長、市議会議長、教育長並びに文部科学大臣、文化庁長官、福岡県知事、福岡県教育委員会教育長に対して、「初代門司駅遺構が世界遺産に匹敵する考古学的近代化遺産であるので、複合公共施設の建設を止めて遺構を全面的に保存すべきである」旨の声明文を発出し、市は、それを今年4月22日に受理した。</p> <p>5月30日、市は、建設工事費123億3,400万円の補正予算を6月議会に提案すると発表した。この予算は、「遺構一部移転保存」と遺構を潰して複合公共施設を建設するためのもので、国際産業遺産保存委員会会長の声明を無視したものである。国際産業遺産保存委員会は、60カ国500人の会員からなる世界的な団体である。市長の方針どおりに遺構が潰されたら、日本国内はおろか世界中から非難の声が湧いてきて、北九州市は、「世界遺産を潰した街」として世界中の人々から蔑み笑われることになる。</p> <p>市長は、5月23日の定例記者会見で、「議会の方から提案理由で示された方向性、あるいはお考えというのをしっかり具現化するのが行政の役割」「議会の提案理由などで示された方針、あそこに書いてあるとおり」</p>	

(続 く)

「議会で示された方向性に従ってやっていく」と述べている。

市長の言う所の市議会が示した方向性と方針は、先の議会で成立した議員提案による「令和5年度北九州市一般会計補正予算に対する修正案」の提案理由のことだ。この修正案が成立したのは令和6年3月で、国際産業遺産保存委員会会長の声明文を市が受理するおよそ一月前のことである。

市議会は、声明文が出る前の時点での賢明な判断の元にその修正案を提案成立させたものであり、会長声明が出されている現在での市議会の判断は、当然に異なるものと考えられる。

しかるに市長は、3月に市議会が示した方向性と方針に従った振りをして、市長の当初方針どおりに遺構一部移転保存と複合公共施設建設を強行しようとしている。世界中から非難を浴びる事態が発生した場合、市長は、市議会が求めた方向性と方針に従っただけであるとして、その全責任を市議会と市議会議員に転嫁しようとするものである。

一旦、「世界遺産を潰した街」の汚名が北九州市に付いた場合、私たち市民と市役所がいくら頑張ってもそれは消えることはない。市長は、市のブランド力アップを主要施策にして取り組んでいるが、市のイメージは、何世代も地に落ちたままとなり、北九州市の子供、青少年、若者たちはその中で育ち生活しなければならない。

複合公共施設に入る9施設のうち耐震改修未実施は門司区役所東棟、門司市民会館、港湾空港局庁舎のたった3施設なので、そこだけを改修すれば費用は大変安くなる。バリアフリー化の改修費用もたかがしれている。市長は、高齢者が門司区役所まで歩いて行くのは大変だとして複合公共施設に建て替える方針だが、門司港駅から区役所までマイクロバスの往復シャトルバスを運行すれば費用は断然安くて済む。それに高齢者は、複合公共施設が完成する令和9年まで待たなくても、今年中に歩かなくて済むようになる。

令和の北九州市が「世界遺産を潰した街」と呼ばれないように、市議会が市長提案の補正予算案を否決するようにお願いしたい。